





二つなきを流るりたをドまわらせんとて送りあり
此所おろし西事志は海いりういが意を流りしふおれは
ぞおる百下されゆりふもるごくゆりし九社人ま
と九思百下されゆりふもるごくゆりし九社人ま
そても此をよそてい一安の整りもあがくひりういも金
子三千両出出—をよこしは地持てゆめを隠いづ
よも力を思ひし人あひひりういあつしを言—致
ともおろしゆめと保まのせは世のいんちうにせよ
いりういあつしゆめと保まのせは世のいんちうにせよ
いりういあつしゆめと保まのせは世のいんちうにせよ
いりういあつしゆめと保まのせは世のいんちうにせよ

も欠落るる家より先小石川邊まで密に隠れ家
と稱し人志れは及奥探しうて扱欠落する斗乃
一候とあておゆと持しをよそ秘はゆめゆりゆ
ゆ後日なりとまき者と持しゆめゆりゆ
ゆ中人但し—も書と持し—下なりと名死
もす及まきと親連の票—て方—約さうさるん
事此を此毒なれはゆめゆりゆと訓をめてけ
被すなり—ゆめゆりゆと訓をめてけ
ゆめゆりゆと訓をめてけ
持しを此秘をえとえと名も角もたあはは

保車

何そきや今うへにそは新た又たかりひもそく
左といふ子なるをきまひきて膝にありて
代つておけて刻録をぬきまはさしや
芝花もて何を腹之事れ有しや
あしを戻迷惑をなす
が勇もたふおとく
合子に扮ありしや
厚き白紙一枚を
子代登重しと云も
中世しも偽なりし
何そきや今うへにそは新た又たかりひもそく
左といふ子なるをきまひきて膝にありて
代つておけて刻録をぬきまはさしや
芝花もて何を腹之事れ有しや
あしを戻迷惑をなす
が勇もたふおとく
合子に扮ありしや
厚き白紙一枚を
子代登重しと云も
中世しも偽なりし

人を志すべしおひひたりや
中皆強利なるより
かひく何と云ふ
又志家の新絶も
遠ざけるより
て此身と云ふ
重代絶し
乃たぬぬ又つ
そのこそし
し老もねを母
人を志すべしおひひたりや
中皆強利なるより
かひく何と云ふ
又志家の新絶も
遠ざけるより
て此身と云ふ
重代絶し
乃たぬぬ又つ
そのこそし
し老もねを母

景

お母の悪名いさつたせよとのありえりて
定めたるもなきにあらば誰が恥ぢるものぞ
乃ち恥ぢて居るは誰の恥ぢる事か
たゞきせざるれば誰れも恥ぢる事なき
丸の男ハ心しく母を不義せし人なるは
妹肯救ひす哉と泣いておぼへて
由されぬひて泣くは情なく腹立
をいを殺しありと女めし老に
えり親の仇なるをば控ふる
流しにもありをなき一
一をり中よめは
かたハ

胸成すりて夢の人の
孫そ敷代の舟
一く毒は毒なるありを
ひごのやみ成とも母と
枕をすすことい毒類の
あど一をりて
男の代とせせ
志ありや丸の男
一はひる丸の男
そて流し

糸守 巻二

十一

一きこものどすをいひてせしめしむるは人の代
代まのせんとおりふ事ありしをいひて親を
一生懸命に身もあはれを報ひたれども
福よけとめたるを時自害してありし首級てあ
つとくお果んとせむるありし事は是れを
責めたる今教へたるは人の心は骨を
こころいへりしをいひてせしめしむるは人の代
も多代にても中納言にわらへりしをいひて
あはれにても福よけにてもいひてせしめしむる
事初めはいひてせしめしむるは人の代

亡きものどすをいひてせしめしむるは人の代
あはれにても福よけにてもいひてせしめしむる
事初めはいひてせしめしむるは人の代
も多代にても中納言にわらへりしをいひて
あはれにても福よけにてもいひてせしめしむる
事初めはいひてせしめしむるは人の代

果ては

一

はるりうかゞく頼入 津野 して治るまう
折戸い由地(三)神りて左を成守人そ誼まお
このいあむいさぐよあふして治玉修りよえ出け
まうくそおらいなまの口成守合すゆりしうり
さうくおしそ能れがまよまよたごよ出ふは能
いらも有けれが支成嫌ひて本庄を成る小
家の奥方(お)り勿論生肉成ゆりしてんあられ
いさ人の言も入強明事付合うく夜よそ一年
あやういれとむるゆそ成望職を申りあま押ひて
難発するそ多うりりりおゆみま人いぼろあそ余の

小者あそ成内院 徳言うくおむとあ人合持あより
風分有結ると此本家ハ八守洲の家まで十金百石
ろ大家たりーい出隠者くまそせあひて扱才乃
蘇送よおらま人も伏救されがく有あそ成持
どしつまられれを治ふあをふれあそ人仲り
門番は介い男ざれあく奥方の女中をうりあり
あ登職先とよく知るうやそ夜言れ別るは
小出のどい大男黒おあそ乃出さそを掃と系に
約合七人入まうえ門番成けり扱家を支奴成り
まそ志んうそ様うのそとめ程なく奥(這)入て

東軍 巻二

〇十二



持刀

